

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

2023年度 府立初予算案

今後10年以内に「教室不足」等の解消めざす考え示す 来年度予算で豊能・大阪市北東部への新校整備に向けた予算を計上

府教委は2月15日、「令和5年度当初予算案」を公表し、今後10年以内に府立支援学校の教室不足を解消する考えを示しました。2023年度の新規事業として、西淀川地域の新校整備に続いて、豊能地域と大阪市北東部への新校整備に向けて予算化されました。

【事業目的】

知的障がい支援学校の在籍数が増加に対応し、児童生徒の教育環境を確保するため、新たな支援学校の整備等により、特別支援学校設置基準における校舎面積基準、学級編成基準の不適合の解消、教室不足の解消を今後10年以内にめざす。

【当初予算額】

3,944,601千円（一般財源：917,768千円）

【事業内容】

(1) 西淀川地域新校整備関連 (3,724,587千円)
もと西淀川高校を課用した新校整備について、施設・設備の改修工事を進め、併せて、必要となるICT環境や物品の整備など2024年4月の開校に向けた準備を行う。

(2) 生野支援学校の移転併設整備関連 (162,256千円)
府立生野支援学校の府立大阪わかば高校敷地への移転（併設）について、今年度実施した基本計画の成果等を踏まえ、引き続き、基本設計を進める。

(3) 府立知的障がい支援学校教育環境改善実施関連 (57,758千円) **【新規】**

全ての地域において、既存の教室等の環境改善を行う。在籍者数の増加が著しく、学級編成基準適合に必要な室数の多い、豊能と大阪市北東部について、それぞれ、閉校した高校等を活用した基本計画の策定に着手する。

府教委は、特別支援学校設置基準における校舎面積基準が不適切な学校として、14校をあげました。また、転用や間仕切り、特別教室等の不足数と学級編成基準（幼稚部5人・小学部6人・中学部6人・高等部8人）を満たすために必要な室数を合わせた391室を「対応が必要な室数」として示しました。校舎面積基準が不適合の14校と「教室不足」等の対応が必要とした391室を解消する手立てとして、2023年度予算で「閉校した高校等の活用」として、豊能地域に1校、大阪市北東部に1校を新たに整備するため、基本計画の策定に着手するとして示しました。

今後10年以内に「教室不足」等の解消をめざす基本的な考え方

地域 (学校数)	校舎面積基準が 不適合な学校数 (支援学校名)	対応が必要な室数		2023年度 新規事業	以下の対策を 引き続き検討
		転用や間仕切り、 特別教室等の不足数	学級編成基準 を満たすために 必要な室数		
豊能・三島 (6校)	2校 (豊中・箕面)	51室	42室	・既存の教室等の環境改善・閉校した高校等の活用1校(豊能)	・閉校した高校等の活用 ・校舎増築 ・交野支援四條 畷校本校化 (小学部の新設)
大阪市 (6校)	3校 (思斉・生野・住之江)	82室	76室	・既存の教室等の環境改善・閉校した高校等の活用1校(市北東部)	
北河内 (4校)	1校 (守口)	37室	10室	・既存の教室等の環境改善	
中・南河内 (4校)	1校 (八尾)	19室	23室	・既存の教室等の環境改善	
泉北泉南 その他(26校)	7校 (和泉・泉北ほか)	34室	17室	・既存の教室等の環境改善	
全46校	14校	223室	168室		
		391室			

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の つじじゅ

一つの教育実践を紹介します。前任校の研修会での発表です。発達障害のあるA子さんの暴言・暴力などの「荒れ」に向き合った取り組みで、レポート課題の「愛情の器をつくる気持ちの支援」に示されるように、安心できる人間関係を築くなかで、A子さんの心の中に人への信頼を育むことを目標にした実践でした。担任の先生は彼女の校内の徘徊にも根気よく付き合い、寄り添い続けました。

運動会の日、卒業1年目のA子さんと再会しました。彼女は私に対して、「駅で見かけたよ」「忙しそうだったから声をかけなかったよ」と言っています。在学中の異様な雰囲気は消え失せ、優しい微笑みを浮かべているのです。そのとき私は、担任の先生たちの粘り強い取り組みが、A子さんの心の扉をひらいたと確信しました。A子さんは現在卒業4年目になりますが、今でも月に一度、学校への近況報告の電話を欠かさず、仕事のことなどを教えてくれるそうです。

今、支援学校ではPDCAサイクルが喧伝されています。それは一定期間の数量的変化による成果を求めるシステムです。しかし、A子さんの担任の先生たちの実践は、「心」という目に見えないものの育ちを追求したもので、その成果は数量で測ることはできません。もともと品質管理を目的とした手法が、教育的価値を評価できるかどうかについてもっと議論が必要です。

3学期、各学校では一年間の教育実践の成果を確かめ合う目的の研修会が開催されています。私の勤務校でも、先日、実践報告会が開催され5人の同僚が授業実践を発表し、どれも素晴らしい内容でした。PDCAサイクルや数値目標にとらわれず、子どもの内面に心を寄せ、些細な変化であっても喜び合えるような教師集団を作っていきたいものです。

「教室不足」「教員不足」解消に向けて抜本的に支援学校新校整備を 多目的トイレ設置、特別教室等への空調整備、合理的配慮、栄養教諭の負担軽減などを訴え

大障教課別交渉

(支援教育課・施設財務課・保健体育課)

2月2日、大障教は支援教育課・施設財務課・保健体育課との課別交渉を実施しました。

交渉には11分會12人が参加し、支援学校の抜本的な新校整備、トイレやエアコンの整備、障害のある教職員への合理的配慮、給食調理業務民間委託に関わる栄養教諭の負担軽減などを求めました。交渉での主なやりとりを紹介いたします。

「教室不足」の解消



寝屋川支援分会
山岡さん

寝屋川支援学校分会は、小学部児童を中心に児童生徒が急増し、「教室不足」問題が深刻化していることを具体的な数字を示しながら訴え、一刻も早く新校整備を進めるよう求めました。

泉南支援学校分会は、2021

特別教室等へのエアコン設置

交野支援四條校分会は、特別教室等の転用によって、エアコンのない教室で生徒たちが更衣しななければならない実態などを示し、特別教室等へのエアコン設置を求めました。

施設財務課は、「元が管理諸室であっても転用によって特別教室等として使用している場合はエアコンを設置できるようにし、各学

年度からはじまった通学区域制の変更によって小中学部の児童生徒が急増し、教室が足りないために、特別教室や保健室などを転用しなければならぬ実態や集会ができていないなどの現状を訴え、その改善を求めました。

支援教育課は、「特別支援学校設置基準」の適状状況等を踏まえ、現在、知的障がい支援学校の教育環境の改善に向けた所要の検討を進めている」と述べました。

校とヒアリングしながら設置をすすめている」「部屋の広さなどの条件によって、対応が変わるので事務室を通して相談してほしい」と説明しました。



四條校分会
鈴木さん

電動ベッドと多目的トイレを設置し教職員の負担軽減を

東大阪支援学校分会は、医

を求めました。

療的ケアも含め、さまざまなニーズに対応できるように多目的トイレの設置と電動ベッド未設置トイレに早急に電動ベッドを導入できるように予算措置を考慮しながら対応」「学校

施設財務課は、「学校配当予算で対応が困難な物品の更新等については、各校へ更新要望調査を実施し、緊急性等を考慮しながら対応」

視覚表示説明機能のあるAEDの導入



だいせん聴覚支援分会
藤田さん

だいせん聴覚高等支援学校分会は、聴覚障害のある教職

員にも使いやすいよう視覚表示説明機能のあるAEDの導入を求めました。保健体育課は、「次回更新に向けて府立聴覚支援学校4校に液晶モニタ付きのAED導入を検討していく」と説明しました。

給食調理業務委託に関わる

栄養教諭の負担軽減



栄養教員部
林さん

栄養教員部は、給食調理業務の民間委託に関わる仕様書をめぐって業者と学校でその解釈が一致しない問題などによって栄養教諭の負担が増大していることを指摘し、その改善を求めました。また、2020年度から調理業務従事者の資格要件が引き下げられ、調理経験のない人が現場に入り、なおかつ頻繁に入れ替わっていることや有資格者である業務責任者が長期に配置されていない学校があるなど、安全・安心を脅かす問題が起きていることを指摘し、自校直営方式に戻すことを迫りました。

保健体育課は、「今後も、契約開始時から給食開始までの期間を含め、給食管理・衛生管理について栄養教諭の負担が少しでも軽減されるよう、学校とも相談しながら検討を進める」「当該受託者に対しては、引き続き業務運営体制の整備、従業員の配置など、指導・対応をおこなっている」と説明するにとどまり、直営方式に戻すことは考えていないと述べました。

ことに幼児・児童・生徒の状況が異なることから、その必要性などについて個別に学校長や関係課と協議の上、取り組んでいく」と説明しました。



東大阪支援分会
荒谷さん



第22回全国障害児学級&学校 学習交流集会in京都 感想ダイジェストその4

今回初めて学習交流集会に参加させていただきました。全体会では、4人の先生方の実践での悩みが自分の悩みとも重なり、時間が経つのがあつという間に感じられるほど引き込まれていました。

三木先生のお話や2日目の分科会、どれも今の自分が聞きたかったことばかりが詰まっていて、白黒だった世界がカラーに変わっていくのを感じました。

日々悩み、解決策がわからず、もう諦めてしまったほうがいいんだな。と、最近の私は自分の気持ちを出すことをやめ、考えることを諦めてしまっていました。学習交流集会に参加し、三木先生をはじめたくさんの先生方のお話を聞かせていただき、様々な実践に触れることで、子どもたちのために、諦めずに考えていこう！自分の気持ちも相手の気持ちも大切にしながら、『できない』ではなく、『できる』方法を考えていこう！と、思うことができました。

ご準備いただいた先生方、お忙しい中、大変貴重な2日間をありがとうございました。おかげさまで3学期を新しい気持ちで迎えることができている！大切なことに気づかせていただき、本当にありがとうございました。

(匿名希望)